

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2472200134
法人名	医療法人 社団川越伊藤病院
事業所名	グループホーム かわごえ
所在地 (電話番号)	三重郡川越町豊田299-1 (電話) 059-364-4103
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 12 月 18 日(木)

【情報提供票より】 (H20年11月26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 8 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	5 人
職員数	8 人	常勤 3人, 非常勤 5人, 常勤換算 3.2人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	2 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	(管理費)1日1,000 円	その他の経費(月額)	31,000 円
敷 金	有(円) <u>無</u>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,360円		

(4) 利用者の概要(11 月 26 日現在)

利用者人数	5 名	男性 名	女性 5 名
要介護1		名	要介護2 名
要介護3	1 名		要介護4 2 名
要介護5	2 名		要支援2 名
年齢	平均 84.8 歳	最低 76 歳	最高 89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 里仁会 二宮病院 ・ 陣田歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は医師である運営者が三重県下で初のグループホームを設立した先駆者で、病院を始め老人保健施設・特別養護老人ホーム・通所介護・ケアハウス等を運営され、現在、鈴鹿市に身体障害者・知的障害者生活介護施設が予定されている。入居者は当初より最小数の5名で(利用者全員が車椅子使用)介護度のレベルは高く、「穏やかに健康で明るい生活を送りましょう。」のケアが実践されている。また重度化・終末期への対応に24時間体制で同法人の敷地内に居住されている医師の手厚い看取りがあり入居者・家族・職員の安心に繋げている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年指摘された改善点について、職員間で話し合わせ外出の支援では、車椅子で日なたぼっこをするなどが改善されている。
重点項目 ②	評価の意義や目的を理解されており、職員の意見も聴取しながら自己評価が作成されている。評価結果は事業所内の会議で話し合い改善に向けて話し合われている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目 ③	運営推進会議は年2回の開催予定で今年度は1回開催されている。できれば閉鎖的にならないためにも基準省令に基づき開催回数を増やしていただき、地域を代表する自治会・老人会代表もメンバーに加えられることを期待する。
	毎月必ず家族の面会があり、利用者が5名という少人数のため個々の家族等と、きめ細やかなやり取りができています。意見や苦情等何でも申し出てもらおう促しているが、これまでに特に問題になるような苦情等は出されていない。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣の住民とは花を届けてくれたり、一緒にお茶を飲んだりして良好な関係が保たれている。今後は自治会等地域との関わりをさらに広げていかれることを期待したい。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「グループホームかわごえ」の理念である「穏やかに健康で明るい生活を送りましょう」という分かりやすい言葉で表現している。	○	法改正でグループホームの基本方針を「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」に改められ地域との関係性が重視されている。前回評価の改善課題でもある理念を再確認していただき、地域密着型として地域に開かれた理念を作り上げていただくことを希望する。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念である「明るく・穏やかに過ごすこと」を常に管理者と職員は共有し、日々実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との交流はないが、近所の方がお花を届けて頂いたり、一緒にお茶を飲んでいただくなど訪れてくれることがある。	○	入居者全員が車椅子使用者で中には体調を崩されている人もある。地域の方々とは法人全体の夏祭り等に参加いただき交流の場面はあるも出かけていくことはない。できれば自治会への入会や地域の行事等に参加し、出向いて行くことで地域とのかかわりを持っていただくことを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義は十分理解されており、管理者・職員等で自己評価・外部評価の検討が行われている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は1回開催されており会議において事業所活動状況や利用者の状況、外部評価結果と改善の取り組み等が報告されている。	○	できれば開催数を2ヶ月に1回以上にしていただき、地域との交流促進のため、かかわりが広まることを踏まえ、メンバーの中に地域の自治会や老人会等に参加していただくことが望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2ヶ月に1回町が主催する介護保険事業者会議に管理者が出席し、行政・町との連携が取れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用料金が月1回現金払いになっており、必ず家族が来訪されている。その機会に利用者の暮らしぶりや健康状態等の報告が行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を設置し、日常的にいつでも意見や苦情を申し出てもらえるように促している。面会の機会に家族等から要望があれば聴取し、外部者へ表せる支援も行われている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員の異動や離職を最小限に抑えるため、法人内での異動は行なわず補充だけが行なわれている。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修に参加しており、基礎研修の参加が随時ある。資格習得を目指す職員への理解があり習得するための協力や促しがある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡協議会に加入し、町主催の介護保険サービス事業者会で当町にある3事業者間との交流が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	同法人施設からグループホームへ移行する利用者が多く、入居時には既に馴染んでいるが、利用前には見学に来て半日ほど一緒におやつを食べながら更に馴染んでもらい、納得した上での利用となる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	編み物を得意とする入居者は、今はもう編むことができない状態であるが、居室には毛糸と編み棒がかごに入れられいつでも編めるような配慮がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ちゃんとした言葉は返ってこなくても、相槌を打つことで本人の意向の把握に努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回の家族の訪問時を利用して話し合わせ、医師と同系列施設の看護師等の助言を得て介護計画を作成し家族の同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	サービス担当者会議、ケアプランの見直し会議が2ヶ月に1回行われている。介護計画の見直しが3ヶ月に1回、身体状況の変化ある時は随時見直しが行われ新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	主治医である母体の病院への通院介助が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者全員が運営者である医師をかかりつけ医としており、体調悪化の利用者がいることで1日2回の往診が行われるなど、利用者の状況に応じた対応が可能で利用者・家族等の安心に繋がっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	開設時から7名のターミナルの看取りの経験がある。入居時には終末に向けた話し合いが行われ対応についての意向を確認している。本人・家族・医師・看護師等携わる全ての職員で方針が共有されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員と利用者の言葉のやり取りは穏やかで一人ひとりのプライドや、プライバシーを損ねるような言葉かけや対応は感じられなかった。個人情報・記録等はカーテンで仕切られた棚に保管され十分な取り扱いが行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかなプログラムはあるが入居者が高齢であるため、ゆったり穏やかにその人のペースに合わせその日を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	要介護度3(1名)・4(2名)・5(2名)の方々が殆どの方が食事介助を必要としている。系列の老健より出来上がりの物が三食運ばれてくるがグループホームでその人に合った内容の調理(刻み)にしている。	○	入居者の介助が必要な中で、何かその人にできることはないだろうかと考え、茶碗を布巾で拭く等、利用者が力を発揮でき、自分も協力しているという意識を持っていただけるような工夫や取り組みに期待する。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望により毎日入浴が可能で、週1回の足浴が行われている。嫌がる人にはタイミングを見て声かけし、対応に工夫して入浴の支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	童謡を歌い手遊びで楽しんだり、中でもジャンケン遊びや塗り絵などが好まれる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	全員が車椅子のため、外へ出かけることが困難でもあるが、利用者は天気の良い日には玄関先で「ひなたぼっこ」を楽しみにしている。軽眠が好きで「うとうと」している人にはその人の希望に沿って支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯のため鍵をかけているが、日中は玄関等に鍵をかけることはない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	1年に1回、夜間を想定した訓練が行われている。	○	今までの訓練は利用者や職員という法人内の人たちだけで行っているが、実際の災害時には地域の方々との協力が必要であり、訓練の時から地域と協同で行うことが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては法人内の業者に、献立等も依頼している。水分や摂取量については個人別にチェックが行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間である食堂と調理場とが一体になり適度な採光と温度設定がされている。季節の花が置かれ、窓ガラスにはトナカイに乗ったサンタクロースやクリスマスの飾り付けがあり楽しい雰囲気がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広く、どの部屋もこざっぱりしていて清潔に感じられる。部屋には最低必要な調度品やタンスなどが持ち込まれ、タンスの上にはぬいぐるみや家族の写真が置かれ、各居室に鉢植えの花が飾られている。		